

全酪連会報 8

2023 AUG No.695

第74年度(令和5年度)通常総会開催される(概要)

若手後継者の本音／加藤 大介さん

酪友フォーラム2023

購買生産指導部だより／DMSシステム(令和4年集計結果)

父の日に牛乳を贈ろう! (後編)

第13回 酪農いきいきフォトコンテスト 入賞作品紹介

日本酪農見て歩紀／有限会社羽出木総合農場(岡山県久米郡久米南町)

酪農トピックス／全国農協乳業協会「令和5年度定時総会」及び「役員会」の開催について(酪農部)ほか

人事異動

Z
E
M
R
A
K
U
R
E
N



LINE公式
アカウント
ができました!
登録をお願いします!



酪農青年女性会議

@642bpcwk



全国酪農業協同組合連合会



第74年度
(令和5年度)

通常総会開催される

概要

本会は、7月27日(木)13時より、明治記念館(東京都港区元赤坂)において、第74年度通常総会を開催し、令和4年度の事業実績、剰余金処分案、令和5年度の事業計画案などの承認を得るとともに、役員の新選を諮りました。

令和4年度事業実績及び令和5年度事業計画

(単位:百万円)

科目	令和4年度実績 ①	令和5年度計画 ②	②/①対比
酪農事業	33,930	32,635	96%
〈取扱金額〉	(7,462)	(6,823)	91%
購買事業〈取扱金額〉	106,013	111,324	105%
総取扱金額	139,869	143,960	103%
	(113,475)	(118,147)	104%
事業総利益	10,611	11,276	106%
販売費用	8,625	8,117	94%
事業管理費	3,041	3,298	108%
事業利益	-1,055	-139	-
事業外収益	1,346	1,431	106%
事業外費用	1,003	1,087	108%
経常利益	-712	205	-
特別利益	163	0	-
特別損失	63	100	-
税引前当期利益	-611	105	-

※科目ごとの金額について、百万円単位未満を四捨五入した数値を表記しているため、下限数値が合致しない場合がある。

※()の取扱金額は、「生乳」の全国再委託販売手数料等の金額、及び当該金額を取扱金額とした合計値。

収支計画の売上高及び損益計算書の事業収益は、この金額で表記する。

本総会には来賓として、農林水産省・関村静雄 審議官、農林中央金庫・尾崎太郎 常務執行役員をはじめとして、公益社団法人中央畜産会、一般社団法人中央酪農会議等、関係団体からもご臨席をいただきました。

総会は、温泉川寛明氏(広島県酪農業協同組合 代表理事組合長)を議長に

選出して議事に入り、いずれの議案も賛成多数で原案どおり承認されました。

また、第5号議案「役員の新選の件」において、役員補選を行い、新たに役員を選任しました。

(新役員については、左記のとおり)

※詳細につきましては、次回9月号に掲載いたします。

新役員体制決定

本通常総会において役員の新選が行われ、下記のとおり新役員が選任されました。



● 理事
望月 英彦
中春別農業協同組合
非常勤／新任



● 理事
臼井 勉
酪農とちぎ農業協同組合
非常勤／新任



● 理事
三瀬 寿登
愛媛県酪農業協同組合連合会
非常勤／新任



● 監事
有村 洋平
鹿児島県酪農業協同組合
非常勤／新任



● 監事
紺野 宏
福島県酪農業協同組合
非常勤／新任

この度ご紹介いたします加藤牧場は福島県中央部に位置する田村郡三春町にあります。三春町は、国の天然記念物の指定を受け日本三大桜に数えられる「三春滝サクラ」を始めとした桜の里として全国でも有名です。樹齢1000年を超えた名木を見るため、毎年多くの観光客が訪れます。加藤牧場が所属する福島県酪農業協同組合は生乳出荷戸数120戸、生乳生産量40,699t（令和4年度）となっております。

就農までの経緯

加藤牧場の始まりは現在の牧場主・尚久さんの妻 鏡子さんのお祖父さん（大介さんの曾祖



▲ 加藤大介さん

今回は、福島県田村郡三春町 加藤牧場の後継者 加藤 大介さんにお話を伺いました。

父）が終戦後に牛を飼い始めたのが始まりだそうです。尚久さんで3代目の牧場です。

大介さんは、高校時代は進路も明確でなかったことから、尚久さんが自衛隊出身であったこともあり、卒業後は自身も自衛隊への道に進みました。4年間勤めたそうですが、将来どうするのか日々悩んでいたそうです。そのような中で見た農業高校が舞台のアニメで「牛の怪我や病気で淘汰を選ぶか、治療してできる限り長く飼うか」という家畜の命の線引きについての描写に影響を受けたそうです。もちろんどちらが正しいということはありませんが、「自分だったらなるべく牛には長生きしてほしい」と大介さんは感じ、「実家が酪農家だから、やってみたい」という気持ちが芽生えたそうです。

自衛隊を退職後は福島県にある大型牧場の従業員として働きました。短い期間ではありましたが、なかなか体験できないこともあったので、「おそらく中小規模の酪農だけでは得られなかった経験もでき、とても勉強になった」と仰っていました。その後は酪農ヘルパーを2年ほど経験したのち、実家の加藤牧場に後継者として就農しました。それまでは20頭前後の経営規模でしたが、令和3年5月に大介さんの就農に合わせて牛舎を新築し、現在の規模となりました。

飼養管理で大切にしていること

加藤牧場は体細胞数が乳汁1mlあたり2〜3万個ほどを維持し、優秀な乳質成績を残しておられます。所属組合独自の審査基準ではありますが、これまで幾度となく良質乳生産の部で優秀賞を獲得し、令和4年度は初めて最優秀賞を受賞されました。実際に牛舎を拝見しますと、とても綺麗で掃除は行き届いており、踏み込み消毒槽の設置など衛生管理も徹底されていました。なぜそのような管理をされているのか伺いますと「先代から牛舎は常にきれいにしていた。自分も汚れるのが嫌なので掃除はこまめにしている」と几帳面な性格の大介さん。ですが「家畜は人間の都合で利用されている。思い通りにならず牛に対して腹が立つことも正直あるけど、できるだけ丁寧に扱ってあげたいと思う」とも仰っていました。牛には健康に長生きしてほしいという大介さんの信念が今の管理に表れているものと思います。

就農してみても

就農してみた感想を伺うと「自分の牧場を持てば理想の経営ができる」と期待していた部分もあったが、両親が引退したあとと自分一人の管理になるので、今はとにかく将来のことが心配。」と不安な胸の内を明かしてくださいました。

若手後継者の

本音

Vol.64



▲ 搾乳牛舎全景



▲ 横臥率が高く、牛床環境の良さがうかがえます



▲▼ 哺育・育成牛舎



▲ 飼料タンク

[経営概況]

所 属 福島県酪農業協同組合(紺野宏代表理事組合長)
家族構成 加藤大介さん(29歳)、尚久さん(父・63歳)、鏡子さん(母・59歳)、祖父母
飼養頭数 経産牛43頭、育成牛19頭(一部預託)

牛が寿命を全うできる、 そんな牧場に。

将来は…

また「酪農家は比較的中は自由」というイメージ持っていました。が、実際作業に入ると思ったより休めないと感じたそうです。新牛舎での頭数増加に伴って自給飼料面積を減らしたり、自動給餌機を導入したりしましたが、まだ手作業の部分も多いため新たな機械の導入による省力化や、疾病を減らして治療にかかる時間を削減したいそうです。

現状では将来的に労働力が大介さん一人になる可能性がある。で、経産牛を減らして、一人に対応できる頭数にすることを視野にいれています。乳量や乳質は今の管理で一番いい状態と感じているため現状維持しつつ、飼料費削減のため購入している輸入粗飼料を一部でも国産粗



全国の若手後継者の皆さん・後継予定者への一言!



酪農ヘルパーや他牧場の経験で得た知識が今とても活かされていると感じています。もし就農するまで準備期間が取れるのであれば、目一杯使って知識を深めて就農することが大切だと思います。様々な牧場の形があって、実際に作業して分かることが沢山あるので、ヘルパーを一度経験することはお勧めしたいです。

飼料に置き換えるなどの方法も模索したいそうです。

酪友フォーラム2023

Challenge to the Next Stage

～酪友とともに50年 次の時代へ～

去る7月13日(木)、札幌パークホテル(札幌市)にて、全国の酪農生産者及び関係者300名余りが参集し、『酪友フォーラム2023』(主催:全国酪農青年女性会議・全国酪農業協同組合連合会)が開催されました。例年この時期に開催する酪農発表大会は、昨年で50回の節目を迎えたことから、ここで50年を振り返り、大会の魅力、意義などを再認識するとともに、次の時代へ新たな第一歩を踏み出すきっかけとすべく、酪友フォーラムを開催しました。

フォーラムは、吉田副委員長による開会宣言で始まり、西尾副委員長による綱領唱和と続きました。

主催者挨拶で、中村委員長は酪友と来賓の出席に対し謝辞をのべた後、『昨今の酪農環境はまれにみる危機に瀕している。このような状況下、農林水産省はじめ、都道府県等の行政による幾多の緊急対策を措置いただいたことに感謝する。一方、乳価は昨年11月と今年の8月に期中改定が行われ、一服感はあるものの、乳価を値上げせざるを得ないこの状況を消費者にきちんと理解され受け入れていただけるよう、これからの理解醸成活動が大切だと考える』と述べました。また、『このフォーラムで、50年の歴史を振り返りつつ、お互いの酪青女活動を知ることによって全国大会の魅力が再認識いただき、これからの夢・希望を大いに語りあい、明日への糧として元気を



▲ 全国酪農青年女性会議
中村委員長

『このような大会を開催することはうれしくもあり、懐かしく、そしてこの組織が可愛くも思います。過去に発表された方は「大会で発表したことで、自分の経営をなお一層しっかりと続けていかなければという責任が生まれた。発表してよかった」と言ってくれている。まさに、酪青女の発表大会はそういうものなのです。』と述べ、『組織は人が作っていきませんが、組織は人も育ててくれます。この素晴らしい酪農青年女性会議がますます発展し、今後の発表大会でまた皆さんが集い、気持ちを高めてたくさんの酪友を作っていたきたい。』とあいさつをしました。

続いて、来賓として、初めに農林水産省畜産局長渡邊洋一氏より



▲ 全酪連 隈部会長

『我が国の酪農経営を取り巻く環境は、生乳需給の緩和に加え、飼料価格の高騰など、厳しい状況にあります。飼料価格の高騰に対しては、本年3月には畜産酪農緊急パッケージを取りまとめ、飼料高騰対策に加え需給改善のための消費拡大緊急対策を措置し、酪農経営の安定を図るための対策を実施しているところです。生乳需給の緩和に対しては、国としても早期に改善できるよう、引き続き皆様の取り組みを後押ししてまいります。酪農については、食料安全保障の観点からも、輸入飼料の過度な依存から脱却し国内の飼料生産基盤に立脚した足腰の強い生産に展開することが重要であると考えています。』



▲ 農林水産省北海道農政事務所
伊澤部長

れることは、誠に時機にかなった意義深いものであり、このフォーラムが、今後の我が国の酪農の未来を担う優秀な経営者が多く育っていく契機となることを願っています。(代読・農林水産省北海道農政事務所生産経営産業部長伊澤航氏。』と祝辞をいただきました。

引き続き、北海道農政部長の水戸部裕氏と、札幌市経済観光局長の一橋基氏より祝辞をいただき、酪友フォーラムは開幕しました。

以下、【第一部】の過去の発表者による現況報告の内容を簡単に紹介いたします。



6次化で地域の懸け橋に

東北酪農青年女性会議
柚原 友加津氏

現在の福島県浜通り地域はいまだ立ち入りが厳しく制限されている所もある中で、住民の帰還が徐々に進んできました。2016年の発表当時、私には二つの夢がありました。一つ目は『仲間の帰還』です。浜通りでは震災前に51戸だった酪農家は、現在7戸になりました

が、2025年には1,300頭規模の復興牧場が誕生する予定です。2015年に被災酪農家5戸が立ち上げた500頭規模の牧場「フェリスラテ」では、その堆肥を、除染で低下した地力の回復に役立てています。また南相馬の仲間が、県内酪農家向けの飼料作物の供給体制を整備しています。ほかにも浜通りで酪農を再開する仲間が増えており、今、酪農が人と地域を繋げる形を作っています。

二つ目の夢は『6次産業化へのチャレンジ』です。昨年、チーズ製造のための施設・機械を整備し販売



▲会場全景

を開始しました。搾りたての生乳の風味が感じられるモツツアレラチーズで、地域の人たちと繋がり、美味しいや楽しいを広げていきたいと考えています。

酪農が急増している中、生乳不足が心配されますが、日本酪農の存在意義は高まっています。牛乳を飲むだけでなく、乳製品を食べるという食文化を広め、福島の復興に寄与したいと考えます。



経営の部発表から15年…現在および未来の映像

中部酪農青年女性会議
北村 克己氏

15年前の発表当時に比べ、現在は従業員などを雇用して、経営の安定のために繁殖和牛40頭を増頭し、ETやOPUにより和子牛生産に取り組んでいます。稲わらとの交換から始めた堆肥の循環は、現在はWCSやデントコーン栽培に活用し、耕種農家から得た農産物は、新たに立ち上げた合同会社「酪」にて加工し、(株)フードリンクの抹茶ラボなどで販売しています。

複合的価値として地域を盛り上げ

るために乳製品の加工販売を行っていますが、始めた当初はまさに寝る間もなく働き、私の「6次産業」は「6次残業」となりましたが、仲間の力を借りながら「独自産業」になってきたと感じています。鉄道会社による地元西尾市をPRするテレビコマーションに抹茶ラボで提供しているジェラートが採用されましたが、これは私たちが価値向上を狙って取り組んでいた成果の一つと考えます。

これまで多くの危機があり、それ乗り越えてきた酪農家の皆様は、その間に力を得て、知恵を得てきたはずです。人の輪、酪農家一人ひとりの力、さらにそれを支える組合や行政、国産のおいしい牛乳乳製品を作ってくれるメーカー、これらの方々の力を一つにし、力強い日本の酪農を築いていきたいという思いで頑張ります。



「継承」…あれから22年 牧場の将来と ~後継者たちの成長~

九州酪農青年女性会議
村上 久幸氏

私は現在、2棟の搾乳牛舎で183頭の経産牛を飼育し、夫婦と

子ども3名、従業員を5名雇用し経営しています。

平成13年の発表では、台風による牛舎倒壊からの復興や、自然に逆らわず自然を活かした環境保全型酪農と規模拡大を目指すため、阿蘇の草地を活用した自給飼料の確保について、当時、経営の目標とした飼養管理の徹底、所得向上のための所得削減、従業員の雇用や法人化について発表しました。

今、思い起こせば、全国大会で発表したことで、他の素晴らしい発表内容が私にとって良い刺激になり、賞をいただきました。発表から4年後には牧場を法人化し、さらに5年後には搾乳ロボットを導入、発表当時の私と同年代になった子どもたちは、令和になるとそれぞれのタイミングで就農し、牧場作業全般を3人で担ってくれています。

子どもたちは、私が当時から掲げていた経営理念の意義を、それぞれ子牛管理、自給飼料、繁殖管理などに力を注ぎたいと語ってくれました。これからきょうだいで仕事をしていく上で食い違う部分も出てくるでしょうが、それぞれで考え、話し

合い、自分なりの意思をもって、自分がそうであったように地域を守りつつ、牧場経営をしてもらえればと思っています。



あれから2年しかたっていないのに

関東甲信越酪農青年女性会議
鎌塚 智子氏

2年前の大会でお話ししたとおり、「ワクワクして稼きたい、楽しんで稼きたい！」の理念は変わっていません。更なるワクワクと楽しさを目指して、昨年は餌寄せロボットを導入しました。常に飼槽に餌があるため弱い牛も食べられるようになり、繁殖が良くなった気がします。また、哺乳ロボットの導入により、昨年の全国和牛共進会の枝肉部門では5位入賞を果たしました。コンビラップも労力に余裕も出て、自給飼料面積も増え受託も増えました。

この楽々経営に欠かせないのが、会計事務所と労務管理事務所のサポートです。特に今の異常な情勢には、何を最優先にするのか、どこまでだったら無理ができるのかなどの

判断のためには、自分の経営を把握していなければ進めない、と思います。いまは技術より状況判断だと思います。毎月の分析もグラフや表で可視化すると、嫌でも現実から逃れられません。

とは言いつつも、悩みは後継者がまだ決まっていないことです。あえて理想を言うならば、長男が診療を兼ねた飼養管理、次男が機械のメンテナンスを含めた自給飼料生産管理を担当する兄弟船でしょうか。

昨今、沢山の酪農家が離農している中、3年後に生乳は足りているのでしょうか？酪農は、国民の命を繋ぐ大切な産業なのです。私たちはその誇りを持って、続けられる限り、酪農を続けていきたいと考えます。



一隅を照らす

北海道酪農青年女性会議
中山 斉氏

2010年に発表した当時は、搾乳ロボットを導入し、苦労を重ねて数年が経ったころの発表でした。自

給飼料の品質も向上したことから、経営的・作業効率的にも非常に向上し、結果が出ると仕事が楽しく、「楽々酪農経営」と題して発表しました。

その後、近隣に稼働したTMRセクターの利用で、収穫作業や給餌も大幅に省力化され、益々の楽々酪農経営となりました。2018年からゲノム解析を開始し、19年にはファームノートカラーの導入、22年にはUモーシオンに切り替えました。その間、遺伝的能力はかなり向上し、これから先もかなり向上していくと期待していますが、まだまだ管理技術のレベルアップが必要と考えます。

当時は発表するにあたり、自分の牧場の強みや弱みがどこなのか、ましてやほかの牧場と比較することや、自らを振り返ることなどしたこともありませんでしたが、大会では、自分では普通と思っていたことを評価していただき、とても自信につながりました。

この発表がきっかけで、その後北海道会議の役員となり、酪青女活動に参加し、おかげで親友と呼べるような仲間や師匠と呼べる先

輩など数多くの酪友と交流を深めることができました。酪農家がお互いを知る、相互に理解しあうためにも、年に一度開かれるこの発表大会は大変大きな意義があり、このような大会で、多くの酪友が直接会い話をすることで、皆様には何か一筋の明かりを見つけてくれればと思います。



仲間を支えられて、今がある。そして、これからも大丈夫

西日本酪農青年女性会議
大松 弘美氏

18年前の発表では、近隣の酪農家と牛群検定の勉強会を行い、検定データをみて牛の状態を把握し、エサのメニューを変え、乳質・乳量・繁殖成績すべてが大きく改善でき、儲けもついてきたお話をしました。発表当時の目標は、勉強会を続け「牛を健康に飼う」簿記と検定を続け経営管理をおこなうこと、の2つを掲げましたが、それらは今でも変わっていません。

しかし、今から5年前に夫が病気になる、一度は酪農を断念しそうになりましたが、頭数を少なく

して儲かる経営を考えました。和牛受精卵をホルスに移植することで和牛子牛を生産し、市場では毎回高値でセリ落とされるようになりました。

また、徳島県女性農業経営者ネットワーク（ゆめネット）の仲間や、全国にできた酪友が当時の私を支えてくれました。酪農家の共通の悩みである周産期病、乳房炎、繁殖などなど、一緒に勉強し解決方法を考え、それを実行し問題を解決、経営改善をしてきました。

簿記記帳も継続しています。2007年から全酪連のDMSに切り替え、経営診断をし、3年・5年先の改善方法を教えて貰い、大変助かりました。

皆さん、どうしようか。迷ったら一歩踏み出しましょう。なんでもやってみる。やらんと分かりません。チャンスとと思ってやってみてください。やったらできます。できたら前向きになれます、一歩前進できます。そして、明日は大丈夫！

引き続き行われた各地域の酪青女の活動を報告いただいた第2部、ラジオパーソナリティーの石川寛氏が

子どもギャラリーで最優秀賞を
受賞した穴見祥太郎君（九州）



▲ 活発な意見が交わされたパネルディスカッション

コーディネーターを務めたパネルディスカッションの第3部も含め、フォーラム全編をYouTube配信していますので、ぜひご覧ください。

また、全国酪農青年女性会議では、LINE公式アカウントを作りました。登録をお願いします！

YouTube



フォーラム全編の様子は
こちらから
→ <https://youtu.be/OBdDDzqllmo>

LINE公式アカウント



酪農青年女性会議
@642bpcwk

DMSシステム

令和4年集計結果

1 DMSシステム参加戸数

DMSシステムが運用され始めてから、今年で16年目となりました。図1は、生産者の皆様に当事業をご利用頂いた戸数の推移です。Aプランは、令和4年より導入された会計ソフト「Z-RABO」を利用し、生産者自身が入力・決算を実施するプランで、142戸の方に利用頂いています。「Bプラン」・「Cプラン」は記帳代行・及び決算整理を委託するプランで、併せて20戸の方にご利用頂いており、以上のプランを合計すると、162戸の酪農家の皆様に継続的な経営管理システムとしてご利用頂いています。また、それ以外の専門スタッフによる経営相談、経営シミュレーション等の受診戸数も延べ341戸を数えています。

2 酪農経営の概況

表1は、令和2年から令和4年の牛群動態、収入、支出及び所得の推移について、DMSで経営管理をしている農場の平均値を経産牛1頭当たりとして示したものです。令和2年および3年は、比較的家族経営に近い法人経営体11戸を含む同一91戸のデータですが、令和4年については、上記条件に近い96戸の平均と、集計範囲に若干の違いがあります。また、令和2～3年については、消費税の会計処理について集計農場の約半数が「税込処理」としたのに対し、令和4年では、ほぼ全ての農場が「税抜処理」としています。このことから、令和3年までの数値は、消費税の発生する勘定科目において収

3 牛群動態と生産指標

入・支出の両方で令和4年と比べ過去大となるため、単純な比較はやや困難となっています。

令和4年は、飼料費が高騰し、令和3年に比べてさらに厳しい経営環境となりました。伸び悩む需給に合わせて、収益の出づらいう低生産牛や長期未受胎牛を積極的に淘汰する動きもあり、例年に比べて更新率が上昇していることが分かります。

飼料費の段階的な価格高騰を受け、令和2年では50%代半ばであった乳飼比は、令和4年には64%にまで上昇しました。これに反比例して、家族所得率が著しく低下していることが分かります。家族所得率は2年前の11.7%から、令和4年では、3.7%まで減少し、令和2年の38%に満たない状態となっています。

4 総収入は前年からやや上昇

生乳売上高の平均値は、令和4年では、経産牛1頭当り103万9千円となりました。昨年に比べ減少しているように見えますが、前述の消費税経理方式を考慮して、令和3年の集計対象農場の50%が税込処理を採用

5 総支出は前年から大幅に上昇

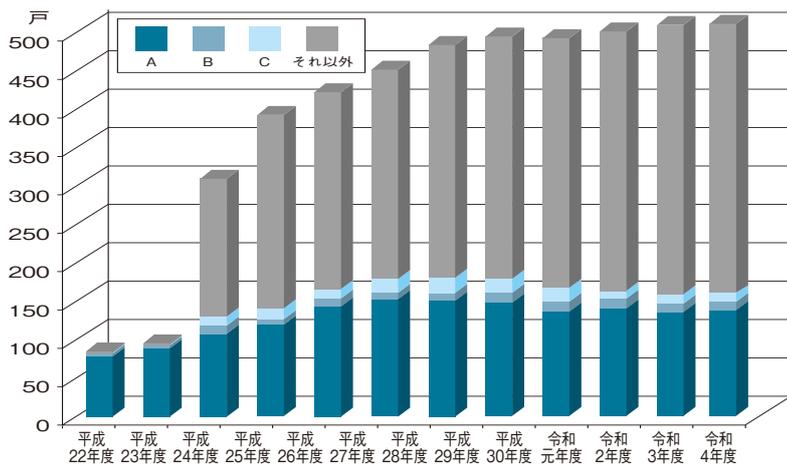
していたとして補正すると、令和3年の税抜生乳売上高は102万円/頭強であると推察され、令和4年はこれに比べ若干の増収とみることが出来ます。これは、当年11月から上昇した乳価分と考えられますが、会計期間上11月～12月の2か月間のみが影響するため、当年間集計ではあまり影響力は高くありません。

副産物収入に関しては、子牛売上高は減少傾向である一方、低成績牛・問題牛の淘汰頭数が増えるなどして、廃用牛売上高は増加しました。雑収入は、補助金額の増加などを背景に大幅に増加しています。以上の結果から、総収入についてはやや増収傾向にあると言えます。

総支出については、令和3年に比べ増加する結果となりました。消費税経理方式の差による影響を考慮すると、費用においても令和3年以前の結果は過大に示されることとなりますので、消費税課税科目については表1に示される以上の差があることとなります。

特に上昇が顕著である飼料費については、生乳売上高と同様の考え方

図1 DMSシステム参加農家戸数(令和5年2月末時点)



	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
Aプラン	76	81	106	120	142	151	153	149	136	145	145	141	142
Bプラン	5	7	9	8	8	12	9	12	14	12	9	11	11
Cプラン	1	2	17	17	17	19	21	20	20	9	9	9	9
それ以外*	2	3	174	243	249	265	295	301	314	316	327	339	341
合計	84	93	306	388	416	447	478	482	484	482	490	500	503

*それ以外…DMSシステムのデータベースを利用した経営分析の実施や経営相談の依頼を受けた戸数(累計)

で補正すると令和2年で55万円／頭、令和3年では58万円／頭程度となり、令和4年は令和3年の状況に加えてさらに8万円／頭程度増加しているとみられます。一方で、修繕費や減価償却費は減少しており、厳しい経営環境を受けて、急を要さない農業機械や建物の修理、資産の取得が見送られた結果であると分析しています。

残らないことになりました。なお、経営牛1頭当り57,544円しか生活原資となりうるキャッシュ残は、借入金の返済分を拠出すると、算してみると、令和2年に比べ半減していることが分かります。ここから、借入金の返済分を拠出すると、

6

「酪農フリーキャッシュ」は141,972円の減少

表1 酪農経営の変化

	令和2年	令和3年	令和4年	前年差
牛群動態/主な指標				
経営牛頭数	53	54	54	±0
平均出荷乳量(kg/頭)	9,088	9,015	9,134	+119
更新率	26.5%	26.3%	29.9%	+3.6%
死産率	9.3%	9.3%	11.6%	+2.3%
乳飼比	54.2%	57.4%	63.9%	+6.5%
家族所得率	11.7%	8.7%	3.7%	-5.0%
経営牛1頭当たり(円)				
総収入	1,383,218	1,380,445	1,360,769	-19,676
生乳売上高	1,069,908	1,063,809	1,038,543	-25,266
肉用子牛売上高	143,522	139,958	112,878	-27,080
廃用牛売上高	29,914	30,252	33,343	+3,091
その他売上高	25,216	19,514	20,174	+660
雑収入	114,658	126,912	155,831	+28,919
総支出	1,221,376	1,259,819	1,299,323	+39,504
雇人費	45,176	43,791	56,475	+12,684
飼料費	582,024	610,960	663,441	+52,481
診療衛生費	33,415	34,593	35,612	+1,019
動力光熱費	53,296	57,090	56,756	-334
共済掛金	32,163	35,497	27,634	-7,863
修繕費	43,095	44,827	36,142	-8,685
支払利息	1,940	2,704	1,920	-784
減価償却費	176,869	183,563	171,881	-11,682
その他経費	253,398	246,794	249,462	+2,668
家族所得	161,842	120,626	61,446	-59,180
フリーキャッシュ	287,736	255,304	141,972	-113,332
借入金償還額	64,982	67,758	84,428	+16,670
キャッシュ残	222,754	187,546	57,544	-130,002

※R2、R3集計農場は、DMS利用者のうち法人経営体11戸を含む同一の91戸。

※R4年集計農場は、R3までの集計範囲と若干異なる96戸の平均値。

※フリーキャッシュ=家族所得+減価償却費-育成振替高+廃牛売却原価である。

※その他経費は、種苗費・肥料費・農具費・作業衣料費・地代賃借料・諸材料費・荷造運賃手数料・廃牛売却原価等。

令和5年の経営環境については、前半の厳しい経営環境や、基金補填額の減少なども加味すると、会計年

7

今後の見通し

度間集計では令和4年以上に厳しい状況になると予想されますが、乳価の再値上げが8月から実施されることもあり、秋口以降、令和6年に向けて緩やかに回復に向かっていくとみられます。それらのプラス材料を確実に収益に変えていくことが今後の経営継続の鍵となります。今一度、農場の生産性や事故率等を見直し、備えることが重要です。

福島県

●福島県酪農青年研究連盟

福島県酪農青年研究連盟では5月～7月までにかけて、牛乳・乳製品消費拡大活動として、酪農家が在籍する全市町村（34市町村中32市町村）を訪問しました。

訪問先では、現在の酪農に関わる情勢や、乳価値上げに

伴う消費減退が危惧されていることから、6月の牛乳月間や牛乳の日などをきっかけに消費拡大への協力をお願いしました。町の広報誌から消費を呼びかけていただいたり、今後の、地元イベントなどでの牛乳の販売やPR等の提案をいただくなど、市町村としても牛乳・乳製品等の消費拡大や、酪農家への支援をしていきたいと力強いお言葉をいただくことができました。また、土地の活用やイベントとのコラボなど、地元酪農家が直接訪問することで地

父の日に

牛乳を贈ろう!



今年も
全国各地で
キャンペーンを実施!

後編

域に密着した様々な施策や展望について意見交換を行うことができました。

訪問場所：いわき市、飯舘村、三春町、川内村、相馬市、南相馬市、郡山市、須賀川市、新地町、鏡石町、楡葉町、会津美里町、小野町、矢吹町、石川町、浅川町、鮫川村、塙町、喜多方市、福島市、川俣町、白河市、葛尾村、二本松市、大玉村、本宮市、南会津町、下郷町、西郷村、泉崎村、猪苗代町、平田村



▲ 喜多方市



▲ 福島市



▲ 西郷村



▲ 鏡石町



▲ 南相馬市



▲ 矢吹町

岩手県

●岩手中央酪農協同組合

第18回「8020健康フェスタ」

開催日：令和5年6月4日(日)

場所：岩手県歯科医師会館

8020健康フェスタ来場者を対象に、牛乳・ミルクを配布しました。

岩中酪青年女性会議所有着ぐるみを着用し来場者を出迎えました。



埼玉県

●埼玉酪農業協同組合

令和5年6月17日(土)にJA花園農産物直売所にて、来場者の方々に、「毎日牛乳を飲んでください」とPRしながら、チラシ・販促グッズ・ミルメーク・牛乳などを配布しました。また、こども園や保育園にもミルメークと似顔絵用紙を配布しPR活動を行いました。



栃木県

●栃木県酪農青年女性会議

日時：6月1日(木) 那須烏山市役所
日時：6月2日(金) 栃木県庁
日時：6月4日(日) 道の駅しもつけ道の駅与一の郷

栃木県知事及び那須烏山市長へ表敬訪問し牛乳の贈呈、消費拡大活動への協力をおねがいました。

道の駅では、牛乳の試飲やミルメーク・グッズの配布を行いました。



●茨城県酪農青年女性会議

6月1日(木)の牛乳の日に合わせて、茨城県知事を表敬訪問し、水戸駅で、一般消費者に、ミルメークや牛乳の日のチラシを配布し、理解醸成活動を行いました。



茨城県

●群馬県酪農青年女性会議連絡協議会

6月15日(木)に群馬県庁を訪問し、県知事に県産牛乳を贈呈し、牛乳・乳製品の消費拡大をPRしました。



群馬県

●岐阜県酪農青年女性会議

「岐阜県知事への牛乳贈呈式」の開催

岐阜県酪農青年女性会議(西尾直樹委員長)は、6月12日(月)に古田県知事への牛乳贈呈式を行い、県内の酪農情勢について意見交換を行いました。古田県知事は乳製品の製造工程や製品の違いについて質問をされたほか、委員の皆様と積極的な意見交換が行われました。



岐阜県

●福岡県酪農青年女性会議

・日時：6月3日(土)～4日(日)
場所：アクロスモール春日

・日時：6月24日(土)
場所：伊都菜彩イベント広場

・日時：6月18日(日)
場所：ラッテビアンコ

活動内容：似顔絵、ミルメーク配布 等



●福岡県酪農青年女性会議

・日時：6月12日(月)
場所：筑前町役場

・日時：6月14日(水)
場所：朝倉市役所

活動内容：町長、市長へ
牛乳贈呈



●熊本県酪農女性部協議会

日時：6月7日(水)

場所：熊本県庁、熊本農政局

活動内容：県知事、農政局長への牛乳贈呈式



●熊本県酪農青壮年部協議会、熊本県酪農女性部協議会、
熊本県酪農業協同組合連合会、熊本県酪農政治連盟

日時：6月25日(日)

場所：阿蘇ミルク牧場

活動内容：リーフレット作成・バターづくり体験・
乳しぼり体験参加者への牛乳配布



●佐賀県酪農婦人部連絡協議会・
JAグループ佐賀畜産振興協議会

日時：6月27日(火)・30日(金)

場所：保育園

活動内容：

- 牛乳贈呈式
- ツール配布
- 3月までの10ヶ月間、月2回牛乳配送



●長崎県酪農青年女性会議

日時：6月17日(土)

場所：保育園

活動内容：食育授業、ツール・ミルメーク配布



●長崎県酪農青年女性会議

日時：6月5日(月)

場所：長崎県庁

日時：6月12日(月)

場所：佐世保市役所

日時：6月14日(水)

場所：雲仙市役所

活動内容：牛乳・乳製品の贈呈 等



▲長崎県 大石知事



▲長崎県農林部 綾香農林部長



▲佐世保市 宮島市長



▲雲仙市 金澤市長

●宮崎中央地域酪農協議会、串間酪農婦人部、
県北酪農振興連絡協議会

- 日時：6月6日(火)
場所：宮崎市役所、JA宮崎中央
 - 日時：6月14日(水)
場所：新富町、木城町、JA児湯
 - 日時：6月15日(木)
場所：西都市役所、串間市役所、JA西都、JA延岡
- 活動内容：乳製品の贈呈



▲宮崎市役所 贈呈式



▲ 歓談の様子



▲新富町 贈呈式



▲西都市役所 贈呈式



▲木城町 贈呈式

●都城地区酪農壮青年部連絡協議会・
JA都城女性部酪農部会・
南部酪農女性部

日時：6月14日(水)
場所：都城市役所、三股町役場、JA都城本所、道の駅都城
活動内容：乳製品の贈呈



▲三股町役場 贈呈式



▲都城市役所 贈呈式

●西諸県郡市酪農青年女性部
連絡協議会

日時：6月13日(火)
場所：小林市役所、高原町役場、JAこばやし
活動内容：乳製品の贈呈



▲小林市 贈呈式



▲高原町役場 贈呈式

●鹿児島本所青壮年・女性部

日時：6月7日(水)

場所：保育園

活動内容：搾乳体験、
仔牛ふれあい体験、
バター作り体験



●種子島支所青年部・女性部

日時：6月9日(金)

場所：西之表市役所

日時：6月9日(金)

場所：中種子町役所

日時：6月9日(金)

場所：南種子町役所

日時：6月9日(金)

場所：幼稚園

活動内容：牛乳・乳製品贈呈 等



●大隅支所青年女性会議

日時：6月8日(木)

場所：鹿屋市役所

日時：6月19日(月)

場所：東串良町役場

活動内容：牛乳、乳製品贈



●鹿児島県青壮年女性会議

日時：6月14日(水)

場所：鹿児島県庁

活動内容：乳製品の贈呈



●志布志支所青年部・女性部、
曾於市酪農振興會

日時：6月17日(土)

場所：道の駅末吉

活動内容：牛乳、
ミルメーク配布

●沖縄県酪農青年女性部連絡協議会

日時：6月17日(土)

場所：イオン南風原店

活動内容：

- ・県産牛乳の試飲
- ・搾乳体験
- ・似顔絵作成



●沖縄県酪農青年女性部連絡協議会

日時：6月16日(金)

場所：豊見城市役所

活動内容：市長へ県産牛乳の贈呈



●沖縄県酪農青年女性部連絡協議会

日時：6月18日(日)

場所：沖縄市銀天町

活動内容：県産牛乳
の試飲



第13回

酪農いきいき フォトコンテスト

入賞作品介绍

酪農家の皆様より応募いただいた40点の中から、酪友フォーラム2023の参加者の皆様による投票で入賞作品を6点選出させていただきましたのでご紹介します。
たくさんのご応募、ご協力ありがとうございました。

特選



「モーモーちゃん、いつも美味しいお乳を出してくれて、ありがとう♥」
九州酪農青年女性会議 まつしま たいち 松島 太一 氏

入賞



「おいしいかい？」
西日本酪農青年女性会議 かわかみ たくろう 川上 拓郎 氏



「ぼくもウシちゃんになっちゃった！」
関東甲信越酪農青年女性会議 せき ちづる 関 千鶴 氏



「ジジ手放していいよ！」
東北酪農青年女性会議 ふくだ ゆうこ 福田 祐子 氏



「いのちの温かさ」
九州酪農青年女性会議 まつたに あかね 松谷 茜 氏



「マニアスプレッダー書道 MILK」
中部酪農青年女性会議 にしで みのる 西出 穰 氏

入賞作品6点に加え、ご応募いただいた作品の中から、全酪連会報およびカレンダーへ掲載させていただきます。
また、各地での牛乳消費拡大活動（「父の日に牛乳を贈ろう！」キャンペーン含む）等で使用することがありますので、ご了承ください。

見て歩紀

No. 362

有限会社羽出木総合農場
岡山県久米郡久米南町

地域に根づいた酪農経営と 皆に愛されるジエラート工房



▲ 山縣泰介さん



◀ 山縣正敏さん

地域の紹介

今回ご紹介する(有)羽出木総合農場は岡山県のほぼ中央に位置する久米南町にあります。

気候は温暖で、標高は1000~500mと高低差があり、台地状をなす比較的平坦な高原面も開け、吉備高原の一部をなしています。

主な産業は米作を中心とする農業で、日本の棚田百選にも選ばれた北庄、上粕地区には、四季を通じてアマチュア写真家が県内外から撮影に訪れます。特に、収穫期の9月には、黄金色に輝く稲穂が眼下に広がります。

組合の紹介

(有)羽出木総合農場は、おかやま酪農業協同組合(長恒泰治代表理事組合長)に所属されています。組

合の令和4年度生乳出荷量は94,893t(前年度比97.2%)、生乳出荷戸数166戸(令和5年2月1日現在)となっています。平成14年4月1日、岡山県酪農業協同組合連合会と岡山県下4つの酪農専門農協(旭東酪農業協同組合、水島酪農業協同組合、瀬戸内酪農業協同組合、ホクラク酪農業協同組合)が合併して発足しました。本所・津山事務所・

蒜山事務所・西大寺事務所・びほく事務所・備南事務所からなり、配送拠点であるセンター・検査室・クーラーステーションなどの施設を要しています。

牧場の概要

(有)羽出木総合農場は、山縣泰介さん(43歳)、山縣正敏さん(73歳)の2名で仕事をされています。現在の飼養頭数は145頭、うち



▲ イタリアンジェラートLATTEのジェラート

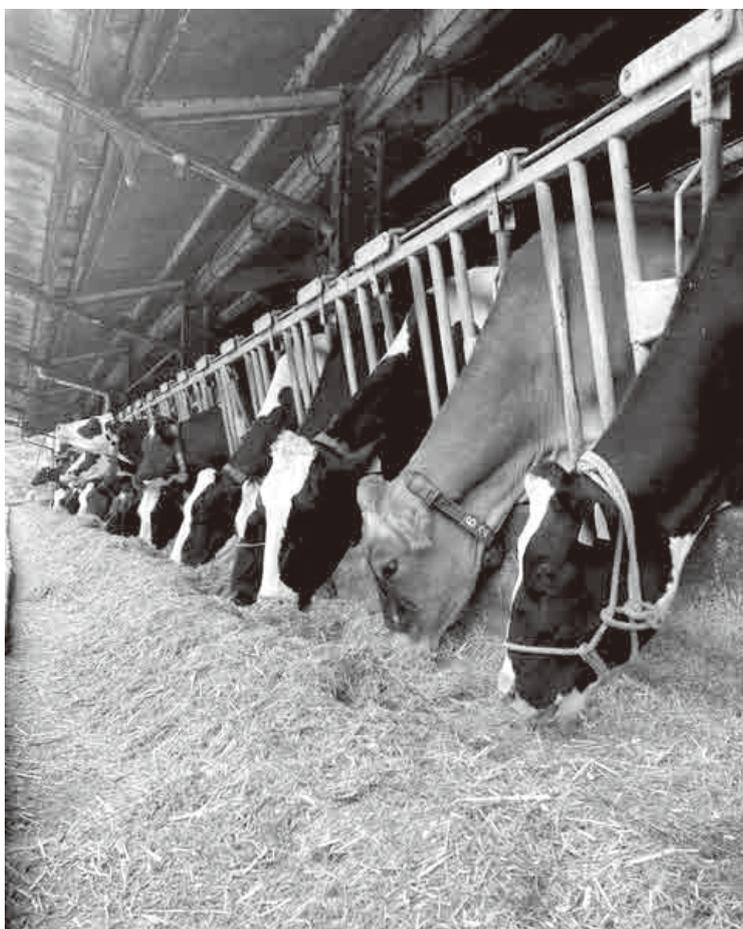
経産牛が75頭です。生乳生産量は日量2,100kg前後で、一頭当たりの平均乳量は約32kgを維持しています。牛舎施設は、フリーバーン牛舎で、搾乳ロボット1台と5頭ダブルのパラーで搾乳を行っています。また、哺育舎と育成舎が別であり、哺育舎には搾乳ロボットが設置されています。飼料は全て購入飼料を使っていますが、一部、岡山県内で生産されたWCSやデントコーンサ

イレージなどを利用してTMR飼料を作成し給与しています。

また、(有)羽出木総合農場は、自家生産した生乳を基にジェラートを販売する6次産業も行っています。牧場のある久米南町から約22km離れた津山市にご自宅があり、そのご自宅のすぐ横に店舗『イタリアンジェラートLATTE』を構えています。ミルクやチョコなどのレギュラーメニューに加えて、マンゴーや安納芋といった季節限定メニューも多く取り揃えており、休日は行列のできる人気店です。

牧場の沿革

牧場は、昭和29年に正敏さんのお父さんが、蒜山地域と同じ補助事業で、国の指定を受けてジャージー牛1頭を導入したところからスタートしました。牧場が始まった当初は津山市で山縣牧場として経営されていたそうです。途中、ホルスタイン種も導入しながら15頭程飼育、その後30頭牛舎を建設して少しずつ規模を大きくしていったそうですが、牧場周辺に続々と住宅が建設されるようになり、移動を決議されたそうです。現在の(有)羽出木総合農場は、元々肥



▲ 大人しい牛が多いです

育農家をしていた方から約40年前に牛舎を引継ぎ、そのまま牧場の名前も継承したそうです。引き継いだ当初は、つなぎ牛舎1棟と肥育牛舎1棟があり、規模拡大をしていく上でフリーバーンへと牛舎も改造されていたそうです。また、搾乳もつなぎからパラー搾乳、そしてロボット搾乳へと時代に合わせて進化を重ねてきました。

飼養管理の特徴

牧場で搾った生乳をジェラートで

使用するため乳質、特に体細胞には気を付けているそうです。敷料には何度も切り返して発酵させた戻し堆肥を敷き、コンポストバーンを実施しています。一部の堆肥は、山縣さん自ら袋詰めを行い、地元の農協に出荷されているそうです。

また、牛群検定や、搾乳ロボットから送られてくる情報を基に、牛個々の状態を管理し、飼料メニューの調整などを行っています。繁殖管理は、繁殖ボードを利用して管理され、山縣さん自身で人工授精

▼ 大人気のいちごパフェ



▲ 季節限定サクラジェラート

も行っていきます。子牛の時から1頭1頭愛情をこめて飼育しているからか、(有)羽出木総合農場の牛は大人しく、触らせてくれる牛が多いです。

ジェラートへのこだわり

(有)羽出木総合農場直営の、『イタリアンジェラートLATTE』は2008年にスタートしました。お店を始めたきっかけは、泰介さんの結婚だったそうです。奥さんに牧場に入ってもらうつもりはなく、以前から興味があった加工品を作ろうと思ったのがきっかけになったそ

うです。現在は、泰介さんが酪農、奥さんが加工と分業して実施しています。

LATTEさんのジェラートは全て、卵を一切使用していないのが特徴です。卵を使用しないというこだわりには、アレルギーのある子にも食べてほしいという山縣さん夫婦の思いやりが詰まっています。また、一部ミルク不使用のシャーベットの販売も行っています。ジェラートの新商品を考えるときは泰介さんと奥さん2人で決めており、自分たちが食べたいと思うものを作っているそうです。特に、一番人気のミル

クジェラートは、泰介さんが子供のころに飲んだしぼりたての牛乳の美味しさを伝えるために妥協はできなかったとお話してくださいました。LATTEさんのジェラートには、出来るだけ地元の農産物を使っており、幅広い年齢層のお客さんに愛されています。

また、LATTEさんではジェラートだけでなく、カタラーナやジェラートケーキ、フルーツがたくさんのったパフェなど幅広いメニューを揃えており、店頭販売のほかに、オンラインショップでも購入することができます。

今後の目標

(有)羽出木総合農場では、今後少数でも管理できる頭数で、加工品に力を入れた酪農体系にしていきたいとのことでした。また、LATTEさんでは、現状維持と皆に愛されるお店になりたいと笑顔でお話してくださいました。

最後に

今回、お忙しい中快く取材をお受けいただきました(有)羽出木総合農場の皆様へ感謝申し上げますとともに、(有)羽出木総合農場のご健勝とご発展を祈念申し上げます。



▲ カップジェラートはネット販売でも購入可能

酪農部
発

全国農協乳業協会 「令和5年度定時総会」及び「役員会」の開催について

酪農部が事務局を担っている全国農協乳業協会（会長：大久保克美 東毛酪農業協同組合 代表理事組合長）において、令和5年度定時総会を令和5年6月15日（木）（会場：KKR ホテル東京）に開催いたしました。

当日は、大久保会長より最近の酪農情勢を交えた挨拶から始まり、来賓としてお招きした農林水産省畜産局牛乳乳製品課長 大熊規義氏より、昨年来生産現場の経営状況が厳しい中で、生産基盤を棄損しないための「酪農緊急パワーアップ事業」等で支援を続けていく旨ご挨拶をいただきました。

定時総会の議題としては、「【第1号議案】令和4年度事業報告及び決算の承認に関する件」について、「【第2号議案】任期満了に伴う、役員選任の件」が

協議され、原案通り可決承認されました。結びに、有田真 副会長（よつ葉乳業株式会社 代表取締役社長）より、閉会の挨拶を頂戴しました。

その後、「第2回役員会」が開催され、新たに副会長として平野浩氏（大山乳業農業協同組合 専務理事）が、理事に有村義昭氏（南日本酪農協同株式会社 代表取締役社長）が就任をいたしました。

今年度は、新型コロナウイルス感染症の分類変更に伴いコロナ前の日常が少しずつ取り戻される中で、牛乳乳製品の需要が回復しない状況や、それに伴う脱脂粉乳の在庫問題等課題は多いですが、引き続き酪農家に一番近い農協乳業を支えるべく、全国農協乳業協会も活動に邁進していききたいと思います。（Y.A）



酪農部
発全国農協乳業協会
「令和5年度クレーム対応研修」の開催

全国農協乳業協会において、令和5年7月5日(水) (WEB研修)に「クレーム対応研修」を開催いたしました。お客様からの各種問い合わせに対し、適切な対応をすることでそのお客様をファンに変えていくことを目的に、ANA ビジネスソリューション(株)の講師を招聘いたしました。今年度初めて開催することもあり、募集開始後すぐに定員30名に到達するなど、各社の関心の高さがうかがえました。

講義では、まず「お客様はどうしてクレームをあげるのか」の心理を、参加者自身がクレームを上げる立場となった時の気持ちから理解を深めていきました。その上で、どのように解消するのか、また言葉の選び方や伝え方、誠意の伝わるお辞儀の仕方を学びました。

今回初めてWEB研修に参加する方も多く、画面越しでのやりとりが難しい場面も垣間見ましたが、講師の経験談やロールプレイング・グループワーク等へ

のフィードバックをメモする姿や、真剣に聞く姿が多く見られました。

受講者からは、「クレームをあげてくれるお客様は、全体の4%しかいないという内容から、声をあげてくれたありがたい存在だと思って対応していきたい」や、「クレーム調査をする際に、お客様目線で対応するという意識が芽生えました」等、日頃の業務にいかしていきたいとの声が多く聞かれました。

今回の研修を通して接客応対力を向上することで、昨今、牛乳乳製品の需要低迷が続く中で、各乳業メーカーのファンを広めていくことも消費拡大につながるかと考えております。

これからも全国農協乳業協会は会員事業者の負託にこたえるべく、様々な情報の発信や研修会の開催など活動をしていきたいと考えております。(Y.A)

なお、本研修会は(一社)Jミルクの国産牛乳乳製品高付加価値化事業の助成を受けて開催しております。



研修の目的

「相手を大切に思う気持ち」を
ベースとした
クレーム対応の基本を理解する

事例研究により、クレーム対応の
基本を理解し実践につなげる

酪農部
発

今回は夏野菜とコラボ!! 「第5回らくのうマルシェ」開催!

牛乳消費拡大と酪農理解醸成を目的としたイベント、『第5回らくのうマルシェ』が7月1日(土)、酪農会館エントランス(東京都渋谷区)で開催されました。

本イベントは、今年1月以来の開催となり、今回も多彩な商品や楽しい企画を用意し近隣住民をはじめとする一般消費者の皆様に牛乳・乳製品の魅力に触れて頂きました。

今回は全酪ブランドの乳製品と全国各地の会員系乳業が製造販売する牛乳等に加え、野菜の移動販売車“つどや”による野菜直売ブースが設けられ、野菜を使用した牛乳レシピの配布や“酪農家ぬるチーズと旬のプチトマトのディップ”などが試食で提供されました。さらに、今回は冷蔵品に加えてアイスクリーム、デザート、ピザなどの冷凍品の展示販売も行われるなど、牛乳・乳製品は全国13社の農系乳業から計

985個が用意され、来場者に様々な商品をご購入頂きました。

また、“つどや”による野菜直売ブースでは、とうもろこしやズッキーニ、トマトなど旬の夏野菜や果物が並び、とびきり甘いプチトマトには特に人気が集まりました。

開催当日の東京都心は、あいにくの雨天となりましたが、傘とチラシを手にした多くの方に訪れて頂き、会場は活気で溢れかえりました。

今回は8月からの飲用向乳価改定による牛乳等の製品価格の改定を控える状況での開催となりましたが、来場して頂いたお客様に、少しでも日本の牛乳・乳製品の魅力を訴えることができたのではないかと感じております。(A.M)



**仙 台
支所発**
**「第30回山形県酪農業協同組合ホルスタイン共進会」
「山形ミルクランド モウモウ フェスティバル」開催！**

令和5年6月24日(土)に山形県酪農業協同組合(山口長一代表理事組合長)主催の「第30回山形県酪農業協同組合ホルスタイン共進会」が同組合前広場にて開催されました。開会式では山口組合長より「まだまだ酪農情勢は厳しいが、最近では配合飼料価格の値下げなど明るいニュースもある。これから情勢が回復することを信じながら力を合わせてこの危機を乗り越えていきたい」との挨拶がありました。開会式の後には3頭の贈呈牛が新規就農者3名へ贈られ次世代への希望がもてる会の幕開けとなりました。

当日は天候に恵まれ、快晴のなか9カ月未満の未經産の牛から4歳以上の経産牛まで幅広い年齢の牛約60頭が観客にお披露目されました。出品牛の審査を務められたブライアンコイン氏(アメリカ セレクトサイアーズ社)も「非常に手入れが行き届いており

審査のしやすい会だった。また牛のレベルも高くアメリカの大会でも活躍できると思う。」と仰っておりました。

また、この日は理解醸成活動も兼ねて「山形ミルクランド モウモウ フェスティバル」も同所にて開催され、酪農関係者だけでなく消費者の方々も多く来場されていました。同組合の関連子会社である株式会社ヤマラクフーズがバター作り用の生クリームを配布しており、それを一生懸命に振る親子の姿や展示された農業用トラクターで記念撮影する人、屋台でお買い物をする人々の姿が見られ、活気あふれるイベントとなりました。

今回の共進会は4年ぶりの通常開催とのことで、関係者も消費者も一体となって作り上げた素晴らしい会となりました。(N.H)



▲ ミルメーク配布

▼ トラクター展示



大 阪
支所発

「第8回 HQMデیلیーアカデミー」開催

6月9日(金)、小野向日葵ホテル(兵庫県小野市)にてハイクオリティミルク農業協同組合(丸尾健城代表理事組合長)主催による「第8回 HQM デیلیーアカデミー」が開催され、生産者並びに関係者総勢約50名が参集されました。全酪連技術顧問永井秀樹氏による「農場再点検～貴方の農場の可能性を見直そう」と題した研修会となりました。

酪農経営を見直す3つのアクション ①生産コストを抑える＝必要なものは必要！見極める ②収入を増

やす＝生産財(牛)の健全性が第一 ③飼養管理の改善から生産効率を押し上げるをテーマに酪農経営向上のために忘れていけない重要なポイントを丁寧に解説されました。参加された生産者の方々は、ご自身の農場作業に照らし合わせながら熱心に受講され、活発な質問が寄せられ盛会のうちに終了しました。農場に眠っている課題を再度掘り起こし、可能性を見直す良い起点になったと思われま

(K.S)

▲ 講師 全酪連技術顧問
永井秀樹氏▲ 開会挨拶
HQM農協丸尾組合長

▲ 研修会場風景

大 阪
支所発中国地区酪農政治連盟協議会
「令和5年度 通常総会」開催

7月5日(水)中国地区酪農政治連盟協議会(三宅委員長)は岡山シティホテル桑田町(岡山県岡山市)において令和5年度通常総会を開催しました。当日は自由民主党 参議院議員 小野田紀美氏、中国生乳販売農業協同組合連合会 代表理事会長 長恒泰治氏、日本酪農政治連盟 事務局長 石本文樹氏と国会議員の秘書5名の代理出席がありました。そして、中国地区酪農政治連盟協議会からは三宅稯次委員長はじめ14

名の出席でした。その後、中国生乳販売農業協同組合連合会 代表理事常務 植野光雄氏の「最近の生乳需給をめぐる情勢について」、日本酪農政治連盟 事務局長 石本文樹氏の「酪政連の活動について」と題した研修会が開催されました。研修会後の情報交換会は自由民主党 衆議院議員 逢沢一郎氏と自由民主党 参議院議員 石井正弘氏が出席され、熱心な意見交換会となりました。

(M.O)



▲ 三宅委員長より挨拶



▲ 自由民主党 参議院議員 小野田紀美氏

福岡
支所発九州生乳販連が
「ハッピーミルクフェスタ in 鹿児島2023」を開催

6月10日(出)、鹿児島中央駅アミュ広場(鹿児島市)で九州生乳販売農業協同組合連合会(中村隆馬代表理事会長)主催の九州 Love Milk Club presents『ハッピーミルクフェスタ in 鹿児島 2023』が開催されました。

当日は生憎の雨模様で消費者の来場が少ないのではないかと心配されましたが、商業施設も多く入る鹿児島中央駅の広場で開催したことで多くの方が来場されました。活動には鹿児島県酪農青壮年女性会議(大渡委員長)、鹿児島県酪農業協同組合(轟木孝一代表理事組合長)から多数の酪農家・役職員が参加し、来

場者に向けて消費拡大・理解醸成活動を行いました。

ステージではトークショーや牛乳クイズ大会、ご当地アイドルショーなど、広場では搾乳・哺乳・飼料体験や南日本酪農協同(株)や鹿児島県酪農乳業(株)の牛乳試飲など、会場周辺ではリーフレット・L L牛乳配布などを行いました。

これから8月の乳価改定を控え、ますます消費拡大・理解醸成活動の重要性が増してきます。九州の酪農家、関係団体が一つとなって消費者に思いを伝えていきたいと感じました (T.S)



▲ 搾乳体験



▲ 飼料体験



▲ 哺乳体験

▲ 轟木組合長(右 鹿児島県酪協)と
稗島常務(左 九販連)の
トークショー

▲ 地元農協乳業者による試飲ブース

福岡
支所発

沖縄のウシヌチーチャー（牛乳）を飲んで！ 沖縄県酪協が県産牛乳をアピール

6月17日(土)にイオン南風原店（島尻郡南風原町）にて、沖縄県酪農農業協同組合（神谷翔平代表理事組合長）が父の日キャンペーンとして消費拡大・理解醸成活動を開催し、県産牛乳の無料試飲、父の日の似顔絵作成、搾乳体験を行いました。県産牛乳を購入した家族に搾乳を体験してもらい、開始時間前から行列ができ、急遽、開始時間を繰り上げるほど大盛況でした。翌18日(日)には、銀天街（沖縄市照間）にてコザいちマルシェ（畜産関係者が集まるイベント）に参加

し県産牛乳300個を配布し消費拡大をアピールしました。

学乳向け比率の高い沖縄県では、学校が休みになる時期には県産牛乳が緩和ぎみになるため、酪農家・組合あげて消費拡大に取り組んでいます。

ちなみに雑学を一つ、沖縄県産牛乳は1リッターではなくてクォーターガロン（946ml）で販売しています。（G.S）



▲ 沖縄のディープスポット銀天街で



▲ 搾乳体験に長蛇の列！



▲ 牛に興味津々、ちょっと怖い？

原稿募集

「酪農トピックス」では皆様からの記事を募集しております

共進会、B&W、酪農祭り、親睦スポーツ大会といった催事情報から組合住所の変更や移転等案内情報、そして直営店情報や組合の自慢情報まで、酪農トピックスでは会員の皆様からの原稿を募集しております。本コーナーは会員の皆様の情報交換の場です。ぜひご活用ください。

送付先 皆様のお近くにありますが本会支所までご送付・ご連絡ください。

■札幌支所

〒060-0003
札幌市中央区北3条西7丁目1 酪農センター5階
tel. 011-241-0765

■仙台支所

〒980-0021
仙台市青葉区中央1-7-20 東邦ビル3階
tel. 022-221-5381

■東京支所

〒151-0053
東京都渋谷区代々木1-37-2 酪農会館4階
tel. 03-5931-8011

■名古屋支所

〒460-0008
名古屋市中区栄1-16-6 名古屋三蔵ビル3階
tel. 052-209-5611

■大阪支所

〒532-0011
大阪市淀川区西中島5-14-10 新大阪トヨタビル6階
tel. 06-6305-4196

■福岡支所

〒812-0016
福岡市博多区博多駅南1-2-15 事務機ビル7階
tel. 092-431-8111

今般の人事異動について、次のとおりお知らせします。

人事異動

新	旧	氏名
<p>■令和5年8月1日付異動発令</p>		
東京支所 指導組織課長	日本酪農政治連盟 事務局長 総務部付出向	石本文樹
日本酪農政治連盟 事務局長 総務部部付出向	(一社)全国畜産配合飼料価格安定基金 事務局長 購買生産指導部付出向	吉村 薫
(一社)全国畜産配合飼料価格安定基金 事務局長 購買生産指導部付出向	(一社)酪農ヘルパー全国協会 事務局長 総務部付出向	岡本 尚之
<p>■令和5年8月1日付昇進発令</p>		
企画管理部 情報システム課長代理	企画管理部 情報システム課 主任	桑原 仁志
総務部 副部長 兼 組織対策課長 兼 酪農を支える人材育成課長	総務部 酪農を支える人材育成課長	坂本 敬太郎
監査室 課長代理	監査室	植野 智仁
仙台支所 次長 兼 酪農課長	仙台支所 酪農課長	近藤 宏
福岡支所 南九州事務所長	福岡支所 南九州事務所長代理	原田 圭介
北福岡工場 製造課長代理	北福岡工場 製造課 係長	坂本 純也
<p>■令和5年8月1日付兼務解除発令</p>		
福岡支所 購買推進課長	福岡支所 購買推進課長 兼 南九州事務所長	前田 遼太

初乳粉末製品

GOODSTART

PREMIUM

免疫グロブリン
70g/袋以上
含有

初乳が足りない時、イザという時の備えに

○作業性は「3楽」～溶かすも楽、給与も楽、片付け作業も楽々～

何かと余裕がなく、慌ただしい子牛の分娩。溶解性に優れているグッドスタートプレミアムを使えばスムーズです。

消化・吸収・機能性に優れた各種成分を配合しました!

良質な
初乳粉末

中鎖脂肪酸

ビタミン
ミネラル

乳酸菌
ビフィズス菌

全卵粉末



全酪連の購買製品カタログ(全国版)はこちら

代用乳・配合飼料・添加物・酪農・畜産機材類 掲載

地域によって、取扱いがない製品もございます。
詳しくは各支所へお問い合わせください。

代用乳製品

生まれた子牛は強化哺育®にお任せください!!

ホルスタイン雌子牛 強化哺育®用



全酪連は2005年1月に搾乳後継雌牛のための「強化哺育®・育成体系」を発表、強化哺育®用代用乳「カーフトップEX」を供給してまいりました。以来、全国各地でご利用いただき、子牛の発育と健康面における大幅な改善、初産分娩の月齢短縮や体格向上、初産乳量増加などの好結果に絶大なご支持を賜ってまいりました。全酪連・酪農技術研究所では、自家産の雌牛を対象に、哺育体系の違い(「標準体系」vs「強化哺育®」)を比較するための飼養試験を1998年より継続してまいりました。これまでの5年間のデータを哺育期・育成期・初産乳期について集積・比較した結果を要約すると、初産分娩月齢は22.3ヶ月でほぼ同一、初産分娩後体重は強化哺育®区が596.2kgで+23.7kg、初産乳期乳量は強化哺育®が9,682kgで標準より+822kgという結果でした。

和牛・F1子牛 強化哺育®代用乳



強化哺育®の効果と和牛子牛やF1子牛に応用するために「カーフトップEXブラック」を開発、2007年夏より供給開始し、全国の肉用素牛の体格を大幅に改善して注目されております。肉用素牛においても、強化哺育®によって、過肥にならず、フレームサイズが大きく、飼料摂取に優れた育成管理が重要であり、全国で自動哺育機による和牛・F1子牛強化哺育®事例が普及しつつあります。「カーフトップEXブラック」は、ホルスタインよりも生時体重の小さい和牛やF1子牛のエネルギー充足を満すためにエネルギー濃度を上げ、更に粉末初乳を加えて便スコアの改善を考慮しています。

お問い合わせ先



全国酪農業協同組合連合会

札幌支所 011(241)0765	仙台支所 022(221)5381	名古屋支所 052(209)5611	福岡支所 092(431)8111
釧路事務所 0154(52)1232	北東北事務所 019(688)7143	大阪支所 06(6305)4196	南九州事務所 0986(62)0006
帯広事務所 0155(37)6051	東京支所 03(5931)8011	中四国事務所 0868(54)7469	
道北事務所 01654(2)2368	北関東事務所 027(226)6851	近畿事務所 0794(62)5441	
東京支店事務所 01537(6)1877	栃木事務所 028(689)2871	三次事務所 0824(68)2133	

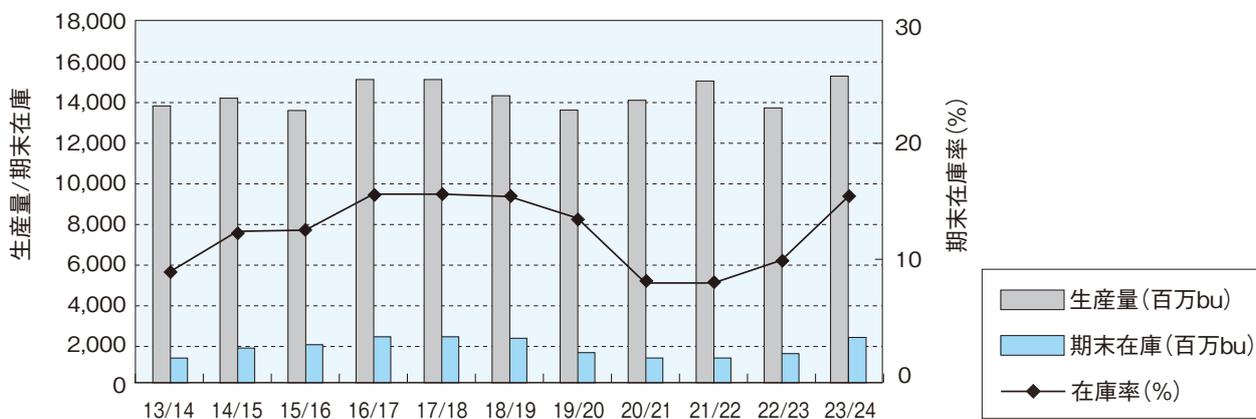


原料情勢

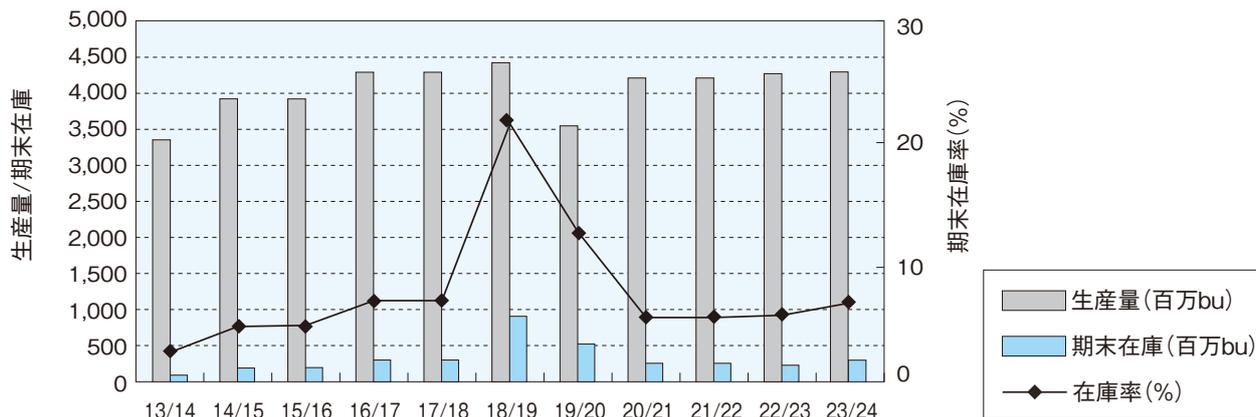
令和5年7月

	22/23年産	23/24年産	
7月12日発表 米国農務省 トウモロコシ 需給予想	作付面積(百万エーカー)	88.6	94.1
	単 収(ブッシェル/エーカー)	173.3	177.5
	生 産 量(ブッシェル)	137億3,000万	153億2,000万
	需 要 量(ブッシェル)	137億3,000万	144億8,500万
	期末在庫(ブッシェル)	14億200万	22億6,200万
	在 庫 率	10.21%	15.62%
	トウモロコシ 相場動向	米中西部での高温乾燥に伴う作柄悪化懸念により、シカゴ相場は一時急騰したものの、米中西部の降雨予報やUSDAが発表したトウモロコシの作付面積が予想を上回ったことから、相場は急落し軟調に推移している。今後もウクライナの穀物回廊の動向や天候に伴う作柄状況に大きく左右される相場展開が予想される。	
大豆粕相場動向	USDA需給報告が予想以上の期末在庫だったことを背景にシカゴ相場は下落した。今後は米国の作付状況が相場のトレンドになるため注視したい。国内搾油メーカーは菜種の方が採算が取れることから大豆から菜種搾油にシフトしており、国産価格は高止まりに推移している。		
槽糠類	【一般フスマ】国内発生品については前年対比減少している。不足分を輸入品で補う動きも出てきていることから輸入量は前年対比大幅に増加している。		
	【グルテンフィード】スターチメーカーは夏季需要に向けて稼働期に入っているが、発生自体は前年並みとなっている。また全畜種での使用量が前年比増となっているため国産の在庫が不足し輸入玉に置き換えている地域も出てきている。		
海上運賃	フレート市況は、中国向け貨物の荷動きが低調で弱含みで推移していたものの、南米産穀物の荷動きが活発化されはじめたことから底を打ち反発している。		

米国産トウモロコシ生産量と期末在庫の推移



米国産大豆生産量と期末在庫の推移





輸入粗飼料の情勢

令和5年7月

<p>北米コンテナ船情勢</p>	<p>米国西海岸における北米西岸港湾労組（ILWU）と雇用主団体（PMA）の労使交渉は賃金と年金給付に関する交渉が難航していましたが、現地6月14日に暫定合意に至りました。現在は各港通常稼働となっていますが、6月上旬に発生した抗議活動の影響によりスケジュール遅延や、滞船数の増加が発生しました。労使交渉の本契約は秋頃と予想されており抗議活動は回避される見通しですが、今後も経過には注視が必要です。カナダ西海岸では春先からカナダ西岸港湾労組（ILWU CANADA）と雇用主団体（BCMEA）の労使交渉が始まっていますが、両者合意には至らず7月1日よりストライキに発展しています。現時点、ストライキの詳細は明らかになっていませんが、スケジュール遅延や荷役遅延といった影響が懸念されます。</p>
<p>ビートパルプ</p>	<p>【米国産】23-24年産のビートパルプの播種作業は終了しており、作付けされた面積は昨年並となっています。6月は乾燥した気候で降雨がほとんどなく7月以降の降雨が望まれています。市場については、米国西海岸で新穀乾牧草の生産も順調に行われていることから、輸出向け、米国向けの需要も少なく産地相場を慎重に見極めている状況です。</p>
<p>アルファルファ</p>	<p>【ワシントン州】主産地であるコロンビアベースンでは、23年産1番刈の収穫が終了し、南部の早い圃場では2番刈の収穫が開始されています。23年産の1番刈の収穫は春先の冷涼な気候により例年に比べ、2～3週間遅れて開始されましたが、収穫作業は気温の上昇も伴い順調に進み、6月末時点で例年よりも早い進捗状況となりました。このまま2番刈以降も順調に収穫が進めば輸出向け用として4番刈の生産まで行われる見込みです。1番刈の品質は、カナダからの山火事による煙がコロンビアベースンに流入したことで、乾燥に時間が掛かり、一部の地域では降雨被害もあったことから産地全体で高級品の発生は少なくなっています。新穀の取引については輸出業者や生産農家も産地相場を慎重に見極める動きが続いており、未だに相場は形成されていない状況です。中東や中国といった輸出向けも低調な買付進捗になっていますが、繰り越し在庫が減少するにつれ買付を始めることも予想されるため、2番刈以降の相場の動きには注意が必要です。</p> <div data-bbox="1034 667 1482 824"> </div> <p>▲ 左:ワシントン産1番刈アルファルファ 右:コロンビアベースン2番刈リアルファルファの圃場写真(6月下旬撮影)</p>
<p></p>	<p>【オレゴン州】主産地であるオレゴン州クラマスフォールズでは、春先の不安定な気候により例年よりも収穫作業が遅れ、6月中旬以降に23年産1番刈の収穫が始まりました。現在、収穫作業は終盤を迎えており、収穫されたアルファルファの一部では見た目が綺麗な良品も発生しています。</p> <p>【カリフォルニア州】インペリアルバレー灌漑局の発表によると、6月15日時点でのアルファルファの作付面積は151,915エーカー（前年同期は133,831エーカー）と前年同期比114%と増加しています。</p>
<p>チモシー</p>	<p>【米国産】主産地であるワシントン州コロンビアベースン及びエレンズバーグでは5月下旬から23年産1番刈の収穫作業を開始し現在、終盤戦を迎えています。コロンビアベースンでは収穫期に降雨が複数回発生したことから高級品の発生が少なく、中～低級品の発生が多くなっています。23年産の産地相場は未だ形成されていませんが、生産農家も産地相場の軟化を見込んでおり、豆類やとうもろこしといった換金作物に転作している圃場も多く、2番刈の生産量は大幅に減少すると見込まれています。</p> <p>【カナダ産】主産地であるアルバータ州中部クレモナ地区では、期待されていた降雨も6月中旬まで降らず、例年よりも乾燥した状況が続いています。このため1番刈の生育も進まず収穫が遅れる見込みです。また、山火事の影響で煙による日照不足や乾燥に時間がかかることから高級品の発生が少なくなることも危惧されています。同州南部レスブリッジ地区では昨年より2～3週間早く23年産1番刈の収穫が始まっています。温暖な気候もあり、収穫時期の降雨も少なければ高級品の発生が期待できます。</p>
<p>スーダングラス</p>	<p>主産地であるカリフォルニア州南部インペリアルバレーでは、6月上旬より23年産の収穫が本格化しています。日本向けの出荷が減少し、産地の多くの輸出業者は22年産の旧穀在庫を抱えていることもあり、例年より遅い買付進捗になる見込みです。灌漑局の発表によると、7月1日時点での作付面積は23,540エーカー（前年同期は48,033エーカー）、前年同期比49%となっており、作付けが開始されてから減少が続いています。しかしながら、日本向けの需要に対しては旧穀在庫も十分にあるため供給力に懸念はなく、作付面積減少により産地相場が上昇することも考えにくい状況です。</p> <div data-bbox="1209 1496 1482 1697"> <p>23年産 ▶ スーダン グラス (6月下旬 撮影)</p> </div>
<p>クレイングラス</p>	<p>クレインは全酪連の登録商標です。 主産地であるアルバータ州中部クレモナ地区では、期待されていた降雨も6月中旬まで降らず、例年よりも乾燥した状況が続いています。このため1番刈の生育も進まず収穫が遅れる見込みです。また、山火事の影響で煙による日照不足や乾燥に時間がかかることから高級品の発生が少なくなることも危惧されています。同州南部レスブリッジ地区では昨年より2～3週間早く23年産1番刈の収穫が始まっています。温暖な気候もあり、収穫時期の降雨も少なければ高級品の発生が期待できます。</p>
<p>バミューダ</p>	<p>主産地であるカリフォルニア州インペリアルバレーでは2番刈の収穫作業が行われており、一部の圃場では3番刈の収穫が開始されています。7月中旬よりバミューダの種子の収穫が開始され、同時に副産物のストローの収穫も始まる見込みです。インペリアルバレー灌漑局の発表によると、6月15日時点の作付面積は65,066エーカー（前年同期62,132エーカー）と前年同期比105%の作付面積となっています。</p>
<p>オーツヘイ</p>	<p>【豪州産】23年産の作付作業は終了しています。作況については6月に産地全域でまとまった降雨に恵まれたこともあり順調に生育は進んでいます。7月以降は乾燥が強まる予報となっており、降雨不足が心配されています。</p>

価格状況 ▲……強含み ▲……やや強含み ▶……横這い ▼……やや弱含み ▼……弱含み

事務所	畜種	相場(万円)	価格状況	管内状況
札幌管内	育成牛(10-12月令)	20~30	▶	札幌管内の7月中旬までの生乳生産量前年比は、函館管内月計で96.3%、累計で97.3%、苫小牧管内月計で93.8%、累計で93.5%の実績となっております。8月の初妊牛動向といたしまして、10月下旬~11月中旬分娩が中心となります。秋分娩となることから、需要は一定数ありますが、価格は横這いに推移するものと見込まれます。しかし、雌雄選別腹におきましては、資源が少ない中で引き合いがかなり強い状況です。経産牛については、道内需要も強いことから、やや強含みに推移すると予想されます。出品頭数は少ないですが、初妊牛・育成牛ともに良質な牛が揃う地域ですので、相場が落ち着いているこの時期での導入をお勧めいたします。
	初妊牛	43~53	▶	
	経産牛	35~45	▶	
釧路管内	育成牛(10-12月令)	20~25	▶	根釧管内の7月中旬までの生乳生産量前年比は、釧路管内月計で96.2%、累計で95.4%、中標津管内月計で96.2%、累計で96.0%の実績となっております。8月の初妊牛動向といたしまして、10月下旬~11月分娩が中心となります。道内市場相場は下り基調であります。その構成は、出品されているスソ物が大きく平均を下げている形となっております。庭先購買での中クラスの牛成りで、40~48万円を見込んでおります。和牛受精卵移植腹は、出回りが豊富にあることから、受精卵の血統により価格差が開いております。暑熱による輸送事故を警戒し、導入頭数も少ない時期ではありますので、資源は確保しやすいと思われれます。
	初妊牛	40~48	▼	
	経産牛	32~42	▶	
帯広管内	育成牛(10-12月令)	25~35	▶	帯広管内の7月中旬までの生乳生産量前年比は、帯広管内月計で94.9%、累計で95.1%の実績となっております。8月の初妊牛動向といたしまして、10月下旬~11月中旬分娩中心となります。初妊牛に関しましては、秋分娩中心の出回りとなりますが、需要は例年より少なく、横這いに推移するものと考えられます。腹別では、今後のホル雌資源の減少を見込んだ動きが出はじめており、雌雄選別腹の需要が高まっております。経産牛に関しましては、高泌乳牛などの即戦力となる牛については高値で取引されるものの、メガ・ギガファームの導入も落ち着いていることから、今後は横這いで推移すると見込まれます。育成牛に関しましては、資源確保の需要が高まっているため、堅調に取引されると見込まれます。
	初妊牛	45~55	▶	
	経産牛	40~50	▶	
道北管内	育成牛(10-12月令)	18~28	▶	道北管内の7月中旬までの生乳生産量前年比は、稚内管内月計で96.6%、累計で96.2%、北見管内月計で96.2%、累計で94.8%の実績となっております。8月の初妊牛動向といたしまして、10月下旬~11月中旬分娩中心となります。初妊牛に関しましては、秋分娩中心の出回りとなり、更新需要も見られるかと思いますが資源頭数も前年並みにあると予想されるため、相場としては横這いに推移すると予想されます。メガ・ギガファームが導入に動いた際は相場が変動する可能性もあるため、注視する必要があります。経産牛に関しても初妊牛と同様の動きになると予想されます。
	初妊牛	43~53	▶	
	経産牛	28~38	▶	
道内総括	育成牛(10-12月令)	25~35	▶	道内の7月中旬までの生乳生産量前年比は96.0%、累計で95.6%の実績となっております。各地域とも、1番草の収穫がほぼ終了し、天候に恵まれたため、良質の牧草が収穫されております。8月の初妊牛動向といたしまして、秋分娩中心となりますが、相場は引き続き、夏分娩相場同様横這いと見込まれます。道内全体の資源は豊富ですが、雌雄選別腹が少なく、F1腹が豊富となっております。今後、道内への導入意欲が回復することがあれば相場が動いてくるため、動向を注視していく必要があります。例年より動きは鈍いですが、益明け以降、導入が活発になる時期になってきます。資源は十分確保出来ますので、導入計画がございましたらお早めに弊会担当者へご連絡頂きますよう宜しくお願いいたします。
	初妊牛	45~55	▶	
	経産牛	35~45	▶	

お詫びと訂正

本紙7月号(No.694)15ページに掲載しました第49回 らくのうこどもギャラリー 入賞作品紹介に誤りがありました。謹んでお詫び申し上げますとともに、訂正いたします。
 ①<誤> ファミリー賞2 品川区立伊藤小学校 1年(西日本) 大塚若菜さん → <正> ファミリー賞2 品川区立伊藤小学校 1年(西日本) 大塚若奈さん
 ②<誤> あすなる賞2「びーちゃんちの牛さん」 → <正> あすなる賞2「びーちゃんちの牛さん」

今月の表紙



今月の表紙は「第13回酪農いきいきフォトコンテスト」に応募いただいた作品「モーモーちゃん、いつも美味しいお乳を出してくれて、ありがとう♥」(熊本県 松島太一氏 撮影)です。

編集後記

- 6月~7月にかけて各地で大雨の災害が相次ぎ、大きな被害が発生しました。心よりお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復旧・復興により、普段の生活が取り戻せますよう、お祈り申し上げます。そのような中ではありますが、紙面でご紹介いたしました。7月13日、札幌市にて酪友フォーラム2023が開催され、全国より300名の酪農家、関係者にご参加いただき盛大に開催することができました。ありがとうございます。今後も、全国の酪友が一体となりこの苦難を乗り越えていきましょう。来年は第51回酪農発表大会を7月に愛知県・名古屋市で開催いたします。皆様と、また元氣にお会いできることを楽しみにしています。
- 会報に関するご意見・ご要望等があれば、以下のアドレスにメールをいただければ幸いです。
shidoukikaku@zenrakuren.or.jp

令和5年8月10日発行(毎月1回10日発行)

全酪連会報 8月号 No.695

● 編集・発行人 岡田征雄
 ● 発行 全国酪農協同組合連合会
 〒151-0053 東京都渋谷区代々木一丁目37番2号 酪農会館
 TEL 03-5931-8003 <https://www.zenrakuren.or.jp/>

今月の

らくのう

こどもギャラリー 入賞作品紹介



牛のおやこ

岡崎市立豊富小学校 4年（中部） 平川亜門

今月の入賞作品は…

岡崎市立豊富小学校 4年（中部）の平川亜門さんの作品です。

牛さんの親子が半身で向き合うように描かれた斬新な構図の絵です。手前の母牛さんの毛並みは細い筆で丁寧に描かれていて、絵心を感じます。重厚で堂々とした絵に仕上がっていると思います。



※この作品は本会と全国酪農青年女性会議共催の「第49回らくのうこどもギャラリー」で全国138点の応募作品から入賞12点に選ばれたものです。

主催 全国酪農青年女性会議